

2020年10月23日 3面

文字サイズ 小 中 大 ブックマーク 印刷

双葉住コン・大林道路JV／福島県双葉町に破碎中間処理施設完成／震災復興の一助に



「双葉中央アスコン」内に完成した破碎中間処理施設

双葉住コン・大林道路JVが福島県双葉町で運営する道路舗装材料の製造・販売施設「双葉中央アスコン」内に破碎中間処理施設が完成した＝写真。東日本大震災からの復興の先駆けとなる「働く拠点」として整備された中野地区復興産業拠点に位置する。復興工事で発生したがれき類を破碎し、再生資材に変える事業をスタートさせる。初年度の廃材受け入れ目標は約2万トン。19日に現地で竣工式が行われた。

所在地は中野塚ノ前6。施設はS造平屋約7560平方メートルの規模。設計は田中建設工業。田中建設が施工した。1時間当たり100トンの処理能力を持つクラッシングユニットの設計・施工は中山鉄工所。

2019年12月に操業を開始したアスファルト合材製造拠点に続く施設。工場内の計画施設がすべて完成し本格稼働を迎えた。竣工式には関係者ら42人が出席。双葉住コンの川中茂取締役は「アスファルト合材の製造と産業廃棄物の中間処理事業で地域の復興に貢献していく」と述べた。大林道路の宮原道浩執役員東北支店長は「稼働済みのアスファルトプラントと併せて無事故・無災害を継続する。お客さまと地域に愛され地域の震災復興の一助となるよう、従業員一丸で業務に取り組んでいきたい」と話した。

記事ID：3202010230304

---

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます

2020年10月23日 3面

文字サイズ 小 中 大 ブックマーク 印刷

双葉住コン・大林道路JV／福島県双葉町に破碎中間処理施設完成／震災復興の一助に



「双葉中央アスコン」内に完成した破碎中間処理施設

双葉住コン・大林道路JVが福島県双葉町で運営する道路舗装材料の製造・販売施設「双葉中央アスコン」内に破碎中間処理施設が完成した＝写真。東日本大震災からの復興の先駆けとなる「働く拠点」として整備された中野地区復興産業拠点に位置する。復興工事で発生したがれき類を破碎し、再生資材に変える事業をスタートさせる。初年度の廃材受け入れ目標は約2万トン。19日に現地で竣工式が行われた。

所在地は中野塚ノ前6。施設はS造平屋約7560平方メートルの規模。設計は田中建設工業。田中建設が施工した。1時間当たり100トンの処理能力を持つクラッシングユニットの設計・施工は中山鉄工所。

2019年12月に操業を開始したアスファルト合材製造拠点に続く施設。工場内の計画施設がすべて完成し本格稼働を迎えた。竣工式には関係者ら42人が出席。双葉住コンの川中茂取締役は「アスファルト合材の製造と産業廃棄物の中間処理事業で地域の復興に貢献していく」と述べた。大林道路の宮原道浩執役員東北支店長は「稼働済みのアスファルトプラントと併せて無事故・無災害を継続する。お客さまと地域に愛され地域の震災復興の一助となるよう、従業員一丸で業務に取り組んでいきたい」と話した。

記事ID : 3202010230304

---

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます